

旧約聖書の中の黙示録 第2部 2009年7月5日 アシェル・イントレーター

再臨時の実際の戦争

黙示録 19 章で、イエシュアが最高司令官として天の軍勢を率いて再臨されます。黙示録 19:11, 14 「また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は(中略)義をもってさばきをし、戦いをされる。天にある軍勢は(中略)白い馬に乗って彼につき従った。」

ヨシュア 5:13-15 で、イエシュアは司令官としてヨシュアの前に現れましたが、軍勢を伴っていませんでした。Ⅱ列王記 6:17 でエリシャは天の軍勢を見ましたが、司令官がいませんでした。

黙示録 19 章はヨシュア 5 章とⅡ列王記 6 章の解決です。ヨシュア記の歴史的な文脈はカナン人との戦いで、Ⅱ列王記はアラム人との戦いです。この文脈がなければ、人は黙示録 19 章の天の戦いを、その時実際に戦いが起こらないと誤解する可能性があります。

ゼカリヤ 14 章には地上側での戦いが述べられており、すなわち世界中の国々がエルサレムを攻撃し(2 節)、イエシュアが再臨しそれに対して戦い(3 節)、主の足がオリブ山に降り立ち(4 節)、主が天の軍勢を伴って来られる(5 節)というものです。黙示録はその天の視点を示し、ヘブライ預言者は地上の視点を示しているのです。私たちは全体像を理解するために両方が必要なのです。

戦いには4つの軍勢、すなわち3つの大軍勢と1つの小軍勢が関わります。それらは御使いの大軍勢、悪魔の大軍勢、諸国の大軍勢とイスラエルの小軍勢です。[ここで、イスラエル軍に従軍するメシアニックジューのために祈ることはどれだけ重要であるか皆さんお分かりでしょう。]黙示録 12:7 「さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが」ミカエルは御使いの司令官でその役割はイスラエルのために戦うというものです(ダニエル 12:1)。

エデンの園を回復する

黙示録 6:14 で天が巻物のように巻き上げられるとあります。黙示録 6 章はイザヤ 34:4 「天の万象は朽ち果て、天は巻物のように巻かれる。」を引用しています。

黙示録 19:15 でイエシュアは神の怒りの酒ぶねを踏まれるとあります。これはイザヤ 63:3 「わたしはひとりで酒ぶねを踏んだ。(中略)わたしは怒って彼らを踏み、憤って彼らを踏みにじった。それで、彼らの血のしたたりが、私の衣にふりかかり」を引用しています。

黙示録 21:1 で新天新地が述べられています。黙示録 21 章は**イザヤ 65:17**「**見よ。まことにわたしは新しい天と新しい地を創造する。**」を引用しています。

黙示録 21:23 で、太陽や月が照らす必要がないという新しいエルサレムが述べられています。[注: 太陽がないとは述べていませんが、街を照らすために太陽は必要でなくなると述べているのです。] 黙示録 21 章は**イザヤ 60:19**「**太陽がもうあなたの昼の光とはならず、月の輝きもあなたを照らさず**」を引用しています。

黙示録 21:12 でイスラエル 12 部族の名が付いた 12 の門がある新しいエルサレムが述べられています。黙示録 21 章は**エゼキエル 48:31** の「**町の門にはイスラエルの部族の名が付けられている。北側の三つの門はルベンの門、ユダの門、レビの門である。**」を引用しています。

黙示録 21 章にある新しいエルサレムの説明全体にわたり、イザヤ書、エゼキエル書、そしてゼカリヤ書から多くの引用がされています。これらすべての説明の文脈はイスラエルの回復と地上に神の御国がうち立てられることです。この文脈なくしては、黙示録はヒンズー教のニルヴァーナ(訳注: 涅槃のこと)またはハリウッド映画のスペースファンタジーのように間違っ理解されてしまいます。

多くの善意あるクリスチャンは黙示録を聖書的な回復というよりもサイケデリックな幻覚として見えます。それゆえ、終わりの時の預言にある大いなる勝利は残念ながらほとんどの人にとって意味のないものとなってしまっています。これは私たちの世代の福音メッセージの最先端であるべきなのですが。

黙示録 22 章にいのちの水の川、木々と実が述べられています。これはエゼキエル 47:1-12 と連続しています。これはまた創世記 2 章のエデンの園を言及しています。黙示録で、ヨハネはエデンの回復を述べているのであって、創造を置き換えているのではありません。置換神学は誤りですが、それはイスラエルに関するだけでなく、地球全体に対する神の目的も誤っています。神は回復の働きをされているのであって、置換の働きをされているのではありません。

はじまりの前から終わりは計画されていた

旧約聖書の文脈が含まれる黙示録の最も重要な局面は、最後の数章にあります。聖書は最初から最後まで一貫しているだけでなく、完全な対称となっているのです。黙示録の最後の三章は創世記の最初の三章を映しています。

創世記の最初に創造、エデンの園が設けられること、アダムとイヴの結婚、そして蛇の勝利があります。黙示録の最後に新しい創造、エデンの園の回復、イエシュアと花嫁の結婚、そして蛇の敗北があります。創世記 3 章に人は罪を犯します。黙示録 20 章(最後から 3 つ目)で、罪は最後の審判にかけられます。[黙示録 20 章で、創世記 3 章の蛇はサタンであることを述べています。]

どんなまともな技術者、建築家または建築請負人であるならば誰でも、設計図に最後のネジ、ワイヤー、そして建物の詳細に至るまで立案されない限り、最初のレンガを置くまたはシャベルで掘るようなことはしないでしょ。神が「光よ、あれ」と言われる前に、主はすでに黙示録の最後まで計画されていました。ラビは、トーラー（訳注：律法の書、モーセ五書）とメシアは創世記にある創造以前から存在していたと述べています。

神はご自身の御国を「世界の基が置かれる前」（マタイ 25:34、エペソ 1:4、1ペテロ 1:20、黙示録 13:8）からご計画されていました。別のラビ文献には「最後に行われることは最初から計画されている」とあります。創世記ですべて行われたことは、すでに黙示録で最終的に完成することが念頭に置かれていたのです。神がご自身の本を書かれる前から、最後の数章のハッピーエンドを計画されていたのです。